

利根川流域の概要

平成24年5月



国土交通省 関東地方整備局

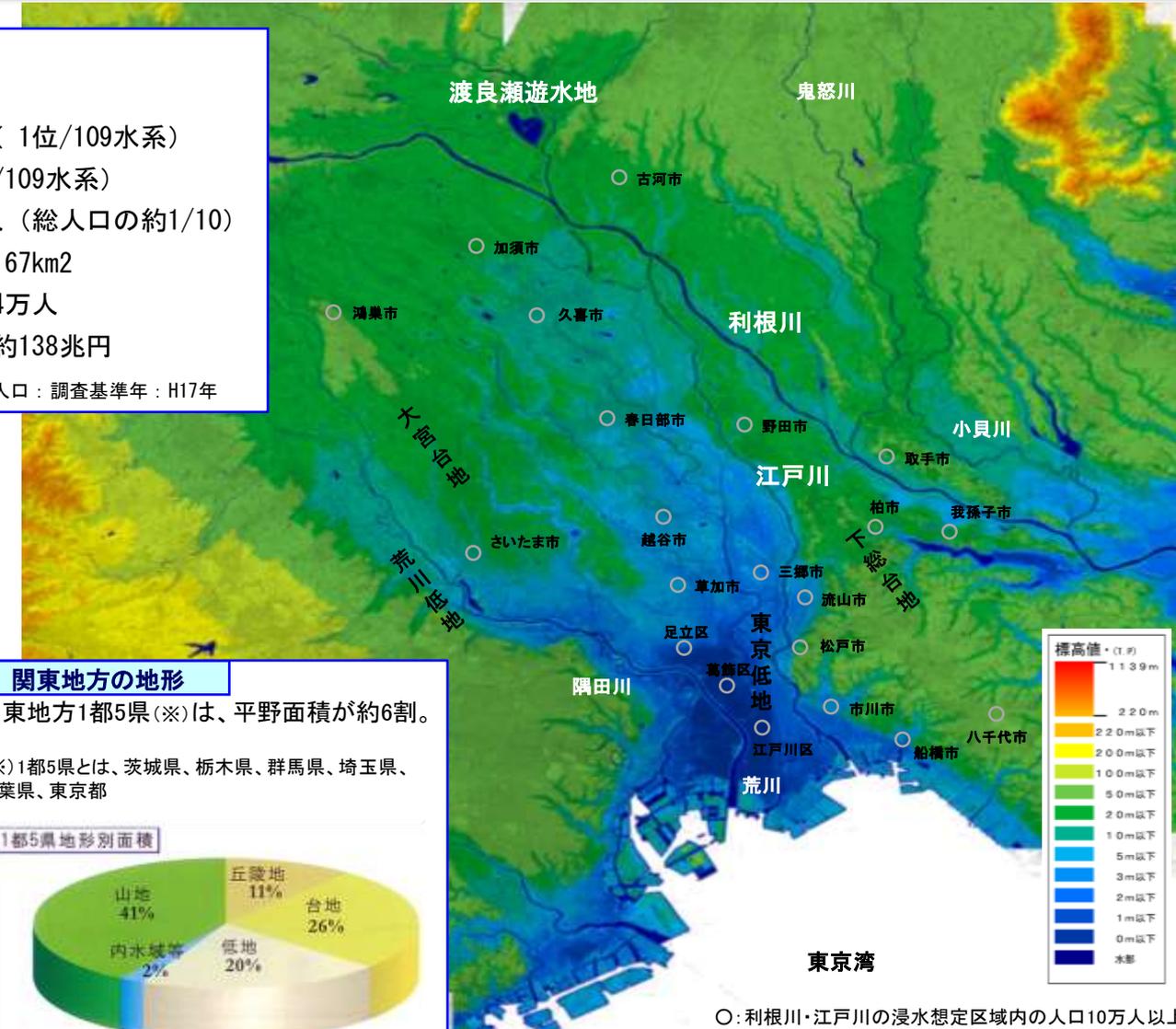
利根川流域の概要

利根川・江戸川は、我が国の社会経済活動の中枢を担う首都圏を擁する関東平野を流れており、利根川・江戸川の洪水時の水位よりも標高が低い低平地に、人口・資産が高度に集積しています。

利根川の諸元

流域面積：約16,840km²（1位/109水系）
流路延長：約322km（2位/109水系）
流域内人口：約1,279万人（総人口の約1/10）
想定氾濫区域面積：約4,167km²
想定氾濫区域人口：約844万人
想定氾濫区域内資産額：約138兆円

人口：調査基準年：H17年



関東地方の地形

関東地方1都5県(※)は、平野面積が約6割。

(※)1都5県とは、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都

1都5県地形別面積



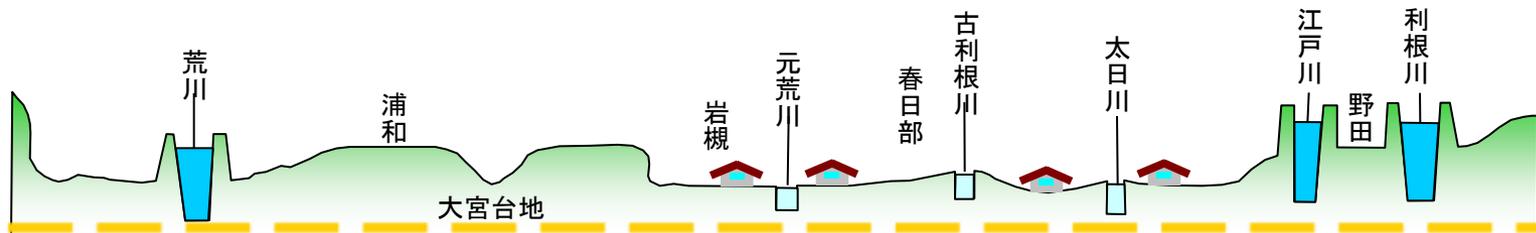
○：利根川・江戸川の浸水想定区域内の人口10万人以上市及び区を表記
(人口：H22国勢調査)

利根川の東遷

徳川家康は江戸入府を契機に「埼玉平野の新田開発」、「舟運の発達」、「江戸を水害から守る」などを目的として、河川事業に着手しました。
最も大きな事業が、東京湾へ流れていた利根川の流路を太平洋へ変更した東遷事業とされています。



※図上の各河川は主な河川のみを概略的に表示しているものである。



利根川における治水計画の変遷

明治33年に直轄事業として改修工事に着手し、大規模な洪水被害の発生や流域の社会経済の発展を踏まえて、治水の計画の見直しが実施されてきました。

M18洪水・M23洪水・M27洪水・M29洪水 ⇒ 【M33計画】（改修計画）

⇒ M43洪水 ⇒ 【M44計画】（改修計画）

⇒ S10洪水・S13洪水 ⇒ 【S14計画】（増補計画）

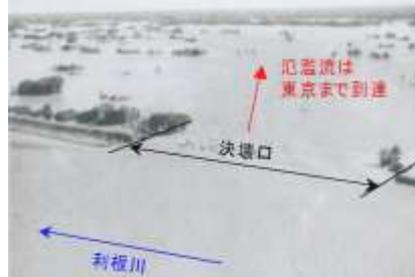
⇒ S22洪水(カスリーン台風) ⇒ 【S24計画】（改修改訂計画）

⇒ 戦後の流域の土地利用変化 ⇒ 【S55計画】(工事実施基本計画)

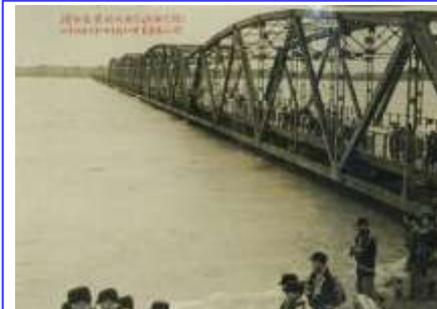
⇒ 河川法の改正 ⇒ 【H17方針】(河川整備基本方針)



● 浸水状況 東京都墨田区(旧向島小梅町)(M43)



● 利根川の堤防決壊 埼玉県加須市(旧東村)(S22)



● 利根川の出水状況
埼玉県久喜市(国道4号橋梁上流)(S24)



● 利根川の出水状況
埼玉県久喜市(国道4号橋梁下流)(H10)



● 浸水状況 東京都江東区(旧亀戸町)(M43)



● 利根川の氾濫流による浸水状況
埼玉県久喜市(旧栗橋町)(S22)



● 利根川の出水状況
埼玉県久喜市(東北本線鉄道橋上流)(S24)



● 利根川の堤防からの漏水に対する水防活動状況
埼玉県加須市(H13)

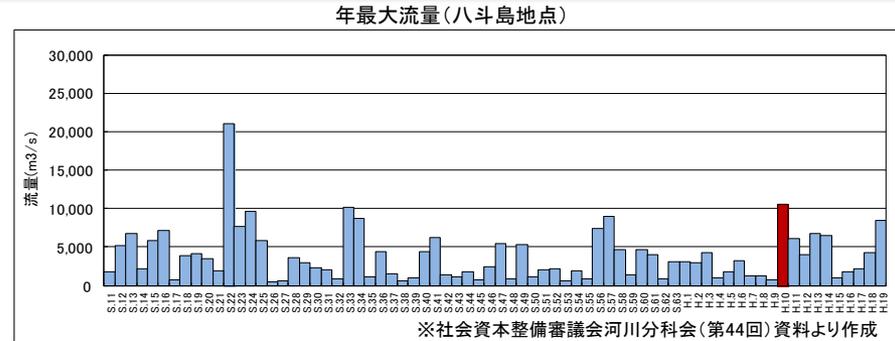
近年発生した洪水

平成10年9月洪水では、台風5号が関東地方に上陸し、前線の影響もあり大雨になりました。八斗島地点の年超過確率で示すと約1/20の洪水(10,590m³/s^{*})となりました。

※八斗島の実績流量(H-Q図)に上流ダム群による基準地点八斗島の効果量を流出計算モデルにより推定して加えた値。



※利根川131.0k地点付近
(埼玉県久喜市)



出水状況 (平成10年9月 台風5号)



航空写真(下流から上流を望む)



JR宇都宮線橋梁下流(埼玉県久喜市)

これまでの主な治水事業

治水の計画に基づき、堤防の整備や川底の掘削等の洪水を「流す」ための整備と、上流のダムや中流の遊水地等の洪水を「貯める」ための整備を行ってきました。このように、洪水による被害をできるだけ小さくするために、**流域全体で役割分担して洪水に対応する整備を進めてきました。**

